

# 議会だより



～地区の期待を背負って～  
第34回町民大運動会

## 平成27年9月定例会・臨時会

あらまし・議案審議 .....	2
決算状況 .....	3
陳情・予算決算審査特別委員会 .....	4
臨時会 .....	6
一般質問 9人が登壇 .....	7
委員会レポート .....	16
町民の声 .....	18

あらまし

9月定例会は、9月7日から17日まで開催されました。町長から提出された議案は、専決処分の報告案件1件、26年度の決算認定3件、27年度補正予算11件、条例の一部改正5件、工事請負契約の締結1件、工事請負契約の一部変更1件、人事案件46件であり、すべて原案のとおり認定・可決しました。一般質問は9名の議員により2日間にわたり行われました。また、委員会提出議案2件、議員提出議案2件が提出されました。

道の駅建築本体工事請負契約の締結について

問 屋根が一体になっており、工期が分かれるということであれば、基礎・杭打ち工事等、付帯の構造に影響はないのか。

答 建築全体の基礎工事については、一括発注をする。これから順を追って発注する別工事、県分も含め、支障はない。

道の駅敷地造成工事請負契約の一部変更について

問 変更理由は土砂の直接搬入を可能にするところがあるが、なぜ今になっての変更なのか。

答 想定した沈下量より沈んだため、土量が足りなくなった。表土をむいたところに河川土砂を搬入する内容である。

反対討論

【山田 長平 議員】 前の埋立工事も契約が変わる。更に不確定要素の中の契約は、私は契約でないと認識するので反対。

五十嵐 ミエ子 議員

道の駅の設置場所にこだわっている。このまま進めていくのは納得できないので反対。

反対討論

【山田 長平 議員】 2期に渡る変更契約であることが異常である。当初の契約が期間の変更、今回一部変更は水路工事の増で、工事そのものも変更になっている。金額も変更になっているので、反対。

【猪苗代町議会議員定数条例】  
賛成多数で議員定数1人減の15人になる!!

『1名削減 提案』  
渡辺真一郎議員 ほか1名

可決

《提案理由》

猪苗代町の人口は、10年間で約2千人減少している。昨今の社会情勢を勘案し、経費節減を図る。

【佐藤 英一郎 議員】

町民の方から減らさなくてはならないという声が多く寄せられている。議会の機能を維持できる形で、1名減に賛成。

賛成!

討論

反対!

【五十嵐 ミエ子 議員】

住民の声を行政に届け、施策に反映させるのが議員の役割である。町民の声が閉ざされてしまうように考えるので反対。

【関沢 和人 議員】

27年3月定例会に定数2名の削減案を提案し、否決された経緯があるので反対。

【議案内容と可決状況】

件 名	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	結果
	細 貝 功 人	佐 藤 悦 夫	佐 藤 英 一 郎	長 澤 操	金 本 久 美 子	渡 辺 真 一 郎	五十嵐 ミエ子	後 藤 公 男	渡 部 博 幸	山 田 長 平	関 沢 和 人	鈴 木 武 喜	穴 沢 進	佐 藤 光 幸	長 沼 一 夫	
平成26年度猪苗代町歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	認定
平成27年度猪苗代町一般会計補正予算（第4号）	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	－	可決
道の駅敷地造成工事請負契約の一部変更について	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	－	可決
道の駅建築本体工事請負契約の締結について	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	－	可決
猪苗代町議会議員定数条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	×	－	可決

上記以外の63議案については全会一致で可決しました。

※賛成「○」、反対「×」、議長は採決に加わらない。

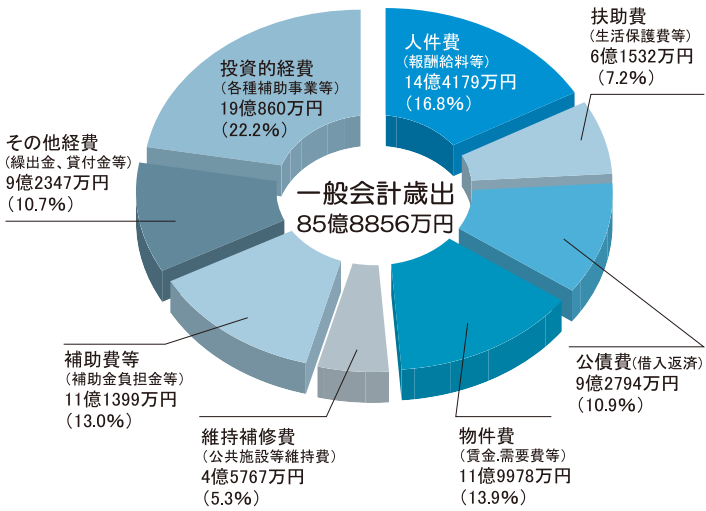
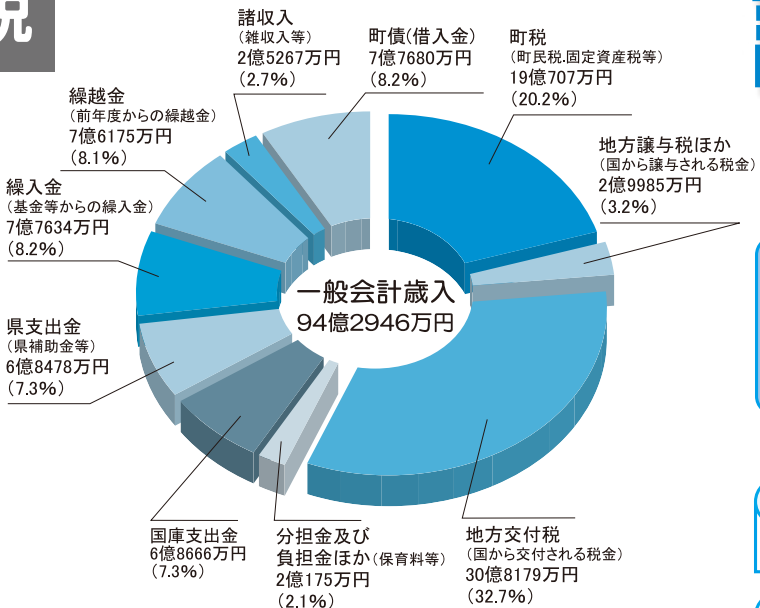
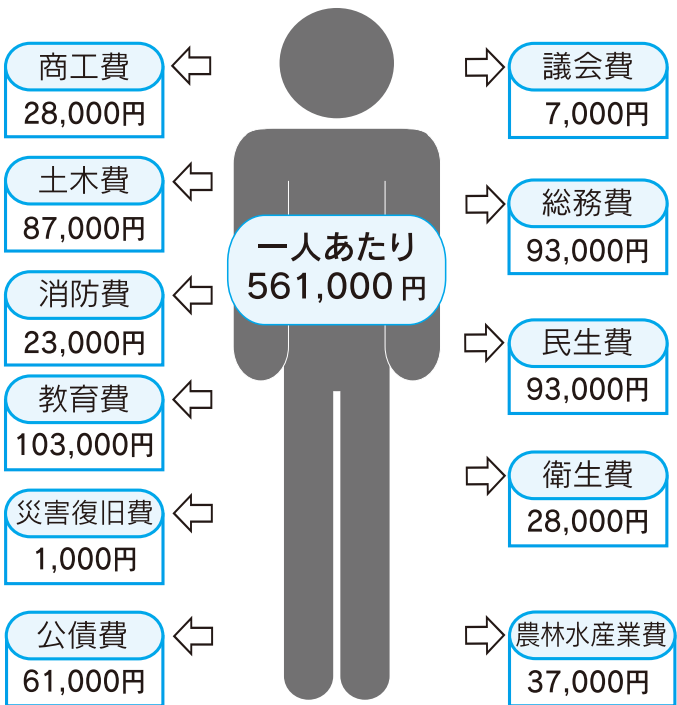
9月定例会

道の駅建築本体工事  
請負契約4億5千9百万円を可決!

平成26年度の決算を認定

町民(15,315人)一人あたりの  
主な使いみち(一般会計)

※人口は平成27年3月31日現在



平成26年度 会計別決算額

会 計		歳入決算額	歳出決算額
一 般 会 計		94億2946万円	85億8856万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	18億1009万円	16億8949万円
	後 期 高 齢 者 医 療	1億6508万円	1億6302万円
	介 護 保 険	14億9856万円	14億8381万円
	下 水 道 事 業	5億3247万円	5億1721万円
	特定環境保全下水道事業	1億5262万円	1億4384万円
病 院 会 計	農 業 集 落 排 水 事 業	1億4530万円	1億4111万円
	収益的収支	8679万円	8975万円
水 道 会 計	資本的収支	536万円	5593万円
	収益的収支	3億7673万円	5億1169万円
水 道 会 計	資本的収支	5584万円	1億1335万円

※千円未満の端数切り捨て。 ※財産区特別会計の決算額については省略。



# あなたの声を審議しました!!

9月定例会で審議された「陳情」の結果は次のとおりです。

区分	件名 陳情者の氏名	付託委員会	審議結果
陳情	西館地区内西側町道脇水路補修に関する陳情	経済建設	採択
	猪苗代町大字西館字南屋敷274番地 西館区長 石澤 房昭		



現地調査を行う委員

議長を除く13名の委員で、平成26年度決算3件、平成27年度補正予算11件を審査しました。

## 平成26年度決算

【主な質疑】

### 一般会計

#### 歳入

《町税》

問 税収について、前年対比で減少している要因は。

答 収入済額が大きく減少しているものはないが、例えば、住民税については、農業所得の減収、固定資産税については経済的な好転がみられないために、納めていただけない状況となっている。

《使用料及び手数料》

問 住宅使用料の収入未済額が昨年度と同程度になっている理由は。

答 ほぼ同じ人が滞納している状況である。定期的に夜間徴収を行っている。分納の誓約書を提出してもらい、少しずつ納入していただいている。また、2名の保証人に

説明をして徴収に努めており、少しずつ改善されている状況である。幼稚園使用料の収入未済額が昨年度より減少したが、その改善策は。

答 平成22年度までの使用料で、滞納者は12名であり、督促状の送付、電話での催促、夜間徴収の実施により前年度より改善された。

#### 歳出

《農林水産費》

問 びわ沢原森林公園桜の森林維持管理業務委託とびわ沢原森林公園整備委託の内容は。

答 桜の森維持管理は、企業の森事業で植樹した桜の雪囲いや刈り払い等の維持管理業務の委託であり、公園整備委託は県の森林環境税の事業を活用し、遊歩道や展望デッキ・ベンチの整備を行ったものである。

問 林道維持費の委託料の内容は。

答 林道4路線の通常の維持管理としての草刈りを集落に委託して実施した。

問 林道三河小田川線は昨年度から通行止めだが、維持管理の必要があるのか。

答 昨年度は時期的なこともあり、復旧工事が発注できなかったが、今年度発注し工事を行っている。

問 有害鳥獣対策事業補助金69万7千円の対象は。

答 件数は16件。交付対象は農家、法人等で、電気柵設置等の補助対象経費の2分の1以内である。

《商工費》

問 歩いて暮らせるまちづくり空き店舗利活用推進事業委託の内容は。

答 緊急雇用創出基金事業を活用して、「まちの駅」が歩いて暮らせるまちづくり事業を担っていることから、「まちの駅」の運営経費を計上した。

## 平成27年度補正予算

### 一般会計

#### 歳出

《県支出金》

問 消費者風評対策事業交付金の交付見込みの基準と、対象となる事業は。

答 県のチャレンジふくしま消費者風評対策事業で、経済産業省の全額の補助で実施される。対象は食

と放射能に関する正しい知識の普及で、消費者と生産者の交流と県産品に対する理解であり、11月中旬頃に予定している首都圏の消費者モニターツアーの実施を計上した。

《繰入金》

問 財政調整基金を繰り入れることによる基金の現在高は。

答 繰り戻しにより平成27年度末の残高は7億1814万4000円を見込んでいる。

#### 歳出

《総務費》

問 ふるさと納税事業費の委託料の内容は。

答 農産物、特産物等の返礼品の確保から発送までの委託料である。

問 ふるさと納税の返礼品の詳細は。

答 寄付額に応じて1、3万円、5万円、10万円、最高額が50万円を限度として、他町村と同様と考えている。

問 旧町立病院管理費の工事請負費の内容は。

答 猪苗代地域福祉交流センター敷地（南側・東側）の砂利敷き工事の経費である。

《農林水産費》

問 農業振興費の委託料47万円は国際商標登録で、町単独で行うのか。そのメリットは。

答 平成26年に町のロゴとロゴマークを8カ国に申請手続きしている登録料である。メリットは、海外においての類似商品が無いよう、オリジナル品種の登録として販売できることである。

《商工費》

問 風評被害対策費の補助金700万円の具体的な内訳は。

答 バス補助の要望があった20校分（3千人分）と、エージェントへの支払いである。

《土木費》

問 道の駅整備事業委託料の地中熱調査はどこか。

答 情報コーナーと物販コーナーの施設に予定している。

《教育費》

問 認定こども園整備事業費の増額補正はこれで最後になるのか。

答 工事としては最後の仕上げとなり、備品も最後であり、負担金も水道の開発負担金である。

## 平成26年度決算の意見

### 【決算の規模】

一般会計と特別会計(10会計)を合わせた決算額は、歳入総額137億8992万3千円、前年度比5.3%の増、歳出総額127億8212万円、前年度比5.2%の増で、歳入歳出とも前年度を上回る決算となった。

### 【歳入】

一般会計は、町税が1366万9千円減、分担金及び負担金が8259万5千円減、国庫支出金が2364万7千円減で、地方交付税が727万4千円増、地方消費税交付が3065万7千円増、県支出金が1億7133万1千円増、繰入金が3億4579万7千円増、繰越金が4億1538万1千円増、町債が2億5540万円増となり、前年度に比べて10億7635万3千円の増となった。経常的収入は消費税が8%に引き上げられたことに伴い、地方消費税交付金が増加し、前年度より5337万1千円増となった。臨時的収入は、平成25年度からの繰越事業に伴う国庫・県支出金、補助金等の増、基金からの繰入金増で前年度より10億2298万2千円の増となった。

### 【歳出】

義務的経費の扶助費は、臨時福祉給付金事業・子育て世帯臨時特例給付金事業に伴う増加で、前年度より9319万3千円の増となった。経常的経費

は、農業系汚染廃棄物処理事業費・冬期間の除雪経費の増、風評被害対策事業等の実施で合計2億290万4千円の増となった。投資的経費は、地域福祉交流センター耐震改修工事、川西認定こども園整備事業、旧吾妻第二小学校屋内運動場耐震改修等で、7億6346万1千円増となった。

### 【町債】

前年比、一般会計が4043万円、特別会計が2億3670万5千円、合計2億7713万5千円減となった。

### 【基金】

財政調整基金が4億4940万円の取崩しで6億5202万円となった。基金総額11億2888万8千円である。

### 【まとめ】

財政の指針となる指数は概ね良好であるが、道の駅整備事業や川西認定こども園整備事業など大型な重点事業が実施され、自主財源の確保が容易でない状況の中、扶助費や維持補修費の増加も見込まれるなど、基金への計画的積立は困難な状況が考えられる。長期的健全財政を確保する観点からも効率的財政運営が図られる予算執行が求められる。

監査委員 佐賀 要一  
監査委員 金本 久美子



# 一般質問 町政を問う



渡辺 真一郎 議員

Q. 水道料金の未納者には給水を停止すべき  
A. 徴収の強化に努める

上下水道の今後は

【渡辺】上下水道の料金改定の予定は。

【答弁】水道、下水道ともに、5年を目途に検討していく。

【渡辺】今後の収支見込みは。

【答弁】水道事業においては平成30年度、下水道事業においては、事業毎に10年を策定している。

【渡辺】検針の回数を減らすことは。

【答弁】経費は削減できるがデメリットも考え十分検討する。

【渡辺】料金の未納者には給水を停止すべきでは。

【答弁】今後徴収の強化に努め、悪質な場合は給水停止の措置をとる。

農振地域の見直しは

【渡辺】基盤整備事業終了後の農振地域の見直しは。

【答弁】28年度で完了するが、なるべく早く終了するよう事業を進める。

【渡辺】農地が宅地になれば大幅な固定資産税の増収にもつながる。農振地域の早急な見直しは。



交通便よく景観も良い場所



農振地域で建築開発のできない場所

【答弁】農用地の安易な除外は本町全体の土地利用や町づくりに支障を及ぼす恐れがあるので、慎重に検討する。

地方創生に係る部署の新設は

【渡辺】この町の可能性を見つけ伸ばしていくことを考える専門部署は。

【答弁】企画財務課で全体的な調整を行い、それぞれの担当課と連絡を密にしながら進めていく。

【渡辺】現在の組織では、創意工夫を生み出すためには難しいのでは。

【答弁】「猪苗代町まち・ひと・しごと創生会議」では、産官学金労など様々な立場の委員で構成されており、町の現状や課題の分析、将来像などを議論している。

【渡辺】変化のスピードに対応する人材と組織にかかっている今後の町の将来は。

【答弁】職員の意識改革そして資質向上を図りながら、社会情勢に対応していく。

臨時会  
(7月23日)

## 副町長に大川原久夫氏が再任!!



副町長に再任された  
大川原 久夫 氏  
〈上戸〉  
(任期は平成31年8月4日まで)

《再任の一言》  
浅学非才の身ですが、町長の意を呈しながら、「活力と希望のあふれる猪苗代の創造」を目標にし、誠心誠意勤めて参りたい。

【審議内容】  
○猪苗代町副町長の選任につき同意を求めることについて  
平成27年8月4日をもって任期満了となるため、大川原久夫氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるもの。

あらまし  
平成27年第5回臨時会は7月23日開催され、専決処分の報告1件、同意1件を審議し、全員一致で同意しました。

臨時会  
(10月2日)

## 道の駅関連工事2件合計1億9494万円契約!!

あらまし  
平成27年第7回臨時会は10月2日開催され、専決処分の報告1件、平成27年度補正予算1件、工事請負契約締結2件、財産の取得1件を審議し、すべて原案のとおり可決されました。

【審議内容】  
○平成27年度猪苗代町一般会計補正予算(第3号)について  
歳入歳出それぞれ612万5千円を減額し、歳入歳出の総額をそれぞれ84億6223万7千円とする。  
○道の駅敷地造成工事(2工区) 請負契約の締結について  
契約金額9396万円、工期は平成28年3月28日と定める。  
○道の駅機械設備工事請負契約の締結について  
契約金額1億98万円、工期を平成28年3月31日と定める。  
○財産の取得について  
電源立地地域対策交付金により消防ポンプ車を購入し、防災力の強化を図るものである。取得金額は1998万円、納入期限は平成28年3月22日とする。

【五十嵐ミエ子議員】  
道の駅の設置場所が、とても納得できないので、このまま進めることについて反対。

### 【議案内容と可決状況】

件 名	2 細貝 功人	3 佐藤 悦夫	4 佐藤 英一郎	5 長 澤 操	6 金本 久美子	7 渡辺 真一郎	8 五十嵐ミエ子	9 後藤 公男	10 渡部 博幸	11 山田 長平	12 関沢 和人	13 鈴木 武喜	14 穴 沢 進	15 佐藤 光幸	16 長 沼 一夫	結果
平成27年度猪苗代町一般会計補正予算(第3号)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
道の駅敷地造成工事(2工区) 請負契約の締結について	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	—	可決
道の駅機械設備工事請負契約の締結について	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	—	可決
財産の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決

※賛成「○」、反対「×」、議長は採決に加わらない。





関沢 和人 議員

Q. 原発事故賠償金の今後は  
A. 引き続き東京電力が営業損害賠償に  
対応すべきと考えている

原発事故賠償は

【関沢】東京電力原発事故賠償について、現在の賠償金の支払いは。

【答弁】原発事故に伴う賠償金の把握方法だが、東京電力会津若松補償相談センターより賠償実績の報告を頂き、支払件数と支払金額を把握している。引き続き、東京電力が営業損害賠償に対応すべきと考えている。

【関沢】これまでに町に支払われた賠償金の総額は。また、一年当たりの額は。

【答弁】支払総額は、本年7月末現在支払件数累計で2280件、支払金額は約111億4800万円となっている。1年当たりの支払額は昨年8月から本年7月までで、支払件数590件、支払額は約27億8100万円となっている。

【関沢】今後、数年に亘って賠償金を受けられるように、町としての対策は。

【答弁】今後も、県や県内の市町村、農林水産業及び商工業団体等で組織する福島県原子力損害対策協議会

の要望活動の中で対応し、町の関係団体と連携しながら対応する。

東京電力(株)損害賠償実績  
(町内事業者支払分)

平成25年度末まで	75億9,000万円
平成26年度	27億5,700万円
平成27年4月～8月 (5ヶ月)	7億5,100万円
合計	110億9,800万円

※会津農業協同組合及び町等公共事業分は含まれない

地方創生は

【関沢】地方創生に対する取組みは。

【答弁】大変重要な施策の一つと考えている。地方版総合戦略の策定を担当課に指示し、「猪苗代町まち・ひと・しごと創生会議」を立ち上げ、実現可能な戦略となるよう期待しているところである。

【関沢】計画の進捗状況は。

【答弁】平成27年5月26日に第1回の会議を開催し、創生会議の設置と委

道の駅整備事業の現状と今後の見通しは

【答弁】造成工事は9月末完了予定である。今年度は本体工事について仮契約を締結しており、今後は機械設備工事及び電気設備工事、駐車場造成工事、下水道接続工事（J R横断部）を発注する予定である。

【佐藤】今後、整備費用が膨張する傾向の予想は。

【答弁】人件費、資材費等々の値上げ傾向は避けられず、1割から2割は増加するものと推測される。

【佐藤】開業後の既存の民間事業者に対する影響と分析は。

【答弁】検証や分析は行っていない。既存事業者との共存共栄、相乗効果を期待したい。

【佐藤】農産物ブランド化対策の一環としてのブランド米「いなわしろ天のつぶ」の現状と今後の展開は。

【答弁】町農産物等ブランド化推進委員会が定めた「いなわしろ天のつぶ栽培歴」を厳守して生産されたもののみを「いなわしろ天のつぶ」として認定し、生産面積は約44ha

佐藤 悦夫 議員

Q. 少子高齢化と人口減少による今後の町財政への影響は

A. 町全体で所得が減少し、引いては住民税の減少にもむすびつくもの考える

【佐藤】少子高齢化と人口減少に伴う町財政への影響と今後の見通しは。

【答弁】町全体で所得が減少し、引いては住民税の減少にも結びつき歳入も減額していくものと考えられ、今まで以上に不断の努力が必要になり、よって人件費の削減や経常経費の縮減、各事業費の圧縮を図る必要が生じると考える。

【佐藤】「ふるさと納税」への取組みと納税者に対する返礼品は。

【答弁】ふるさと納税へのさらなる拡充を推進し、返礼品に関しては「いなわしろ天のつぶ」や牛肉など特産品の詰め合わせを考えている。

【佐藤】ひとり親（主に母子家庭）の移住定住の促進と、女性雇用の場の対策は。

【答弁】定住促進住宅は単身でも入居が可能であり、民間賃貸住宅家賃補助並びに定住促進事業補助については、ひとり親でも補助の対象となるような制度設計がされている。看護、介護、サービス業、一般事務等、幅広い業種から求人が寄せられており、これらの情報提供と雇用の拡大を図っていきたい。

員の委嘱、「人口ビジョン及び総合戦略策定」の概要とスケジュールなどを説明した。

第2回の会議を平成27年7月30日に開催し、人口現状分析や将来設計、町民アンケート、委員や関係団体のヒアリングの内容を示し、総合戦略の骨子(案)について説明した。

【関沢】減少し続ける人口に歯止めをかける実効ある具体策は。

【答弁】骨子(案)は、「道の駅の展開」「地域を担う人材育成」、「きめ細やかな子育て支援」、「定住に係る魅力あるライフスタイルの提案」、「農業振興」、「交流促進」などを柱として、実行可能な施策を展開していきたい。

【関沢】何年後には何人とする人口目標は。

【答弁】現段階では目標人口を示すことはできないが、町民の方々のアンケート結果や、総合戦略の事業効果などを勘案しながら、当町の長期人口ビジョンの目標値について、少しでも高く設定できる鋭意努力をしながら、示せるようになれば、公表していきたいと考えている。

(47名)で品質の向上と供給量の増加を図る。

またPRの展開を図りつつ、町内学校給食の中で米飯は昨年からすべて天のつぶに切り替え、その他さまざまなイベントの場面で試供品の提供をしている。

【佐藤】郡山市が猪苗代湖と安積疎水とを日本遺産として目指すといっているが当町の関わりは。

【答弁】郡山市から事前に周知は受けている。県と郡山、会津若松両市と連携し協議を進めている。



天鏡の湖 猪苗代湖





後藤 公男 議員

Q. 町営牧場に国立自然史博物館の誘致はできないか

A. 今後情報を精査して様々な面から検討する

町営牧場の今後の活用は

【後藤】牧場に時かかっているそばの安全性は。また、草地の牧草は。

【答弁】牧場で「すまいる東北プロジェクト」の一環で、栽培されているそばは安全性を確認し利用されている。牧草については、モニタリング検査をしながら草地更新した場所、安全性が確認された場所から採草地として更新済みの25haについて利用している。

【後藤】昭和の森へ行く町道の東側が荒れているが、整備してイベント等の利用は。また企業誘致や、県と連携しての国立自然史博物館誘致は。

【答弁】該当箇所は来年度、草地更新予定している11haである。以前企業誘致ということで、造成され浄化槽が設置されたままとなっている引き続き候補地の一つとして企業誘致に努めたい。

国立自然史博物館については様々な面から検討する必要があると考える。

道の駅整備事業の進捗状況は

【後藤】本体工事に付随する電気工事・機械設備工事の発注時期は。

【答弁】27年度近々に体制を整えたい。この後すぐに入札を執行し、仮契約を締結、議会に上程する。

【後藤】道の駅、周知の為の広報活動は。

【答弁】町のホームページ、広報誌への掲載等で周知を図る。道路の案内板については、現在、国・県と協議中である。

【後藤】駅長の経営方針と管理運営に対する町の関わりは。



町で最も風光明媚な町営牧場

【答弁】経営者である会社側とのすり合わせ等々をし、町の広報誌等で早めに公表していきたい。

関与については、あくまでも株式会社であるので、積極的な関与はするが、無理押しはしないという基本的な考えである。

【後藤】農産物の6次化や新商品の開発は。

【答弁】町単独の農産物6次化推進補助事業を創設した。5件の申し込みがあり、部会で事業として適当と判断され、現在補助金の交付事務を進めている。開業前には商品を示したい。

【後藤】総合防災拠点として重点道の駅に選定されたが、どんな災害に対応するのか。また、訓練とその規模は。

【答弁】火山噴火や豪雪・地震等のあらゆる災害対策の拠点として整備されるもので、火山災害、地震災害時の要救助はもちろん、山岳遭難等の場合でもヘリポートから救急車で搬送される。

防災訓練は、道の駅オープンの際の予定であり、規模等の詳細は決定していない。

し、アレルギーのある児童については、医師の診断に基づく除去食や代替食を提供する予定である。

【金本】職員の対応は。

【答弁】今年度で統廃合する4幼稚園、1保育所の保育教諭の人数は、正職員16名、嘱託職員16名の32名で今年度から幼稚園で3年保育を実施した。3歳児の割合が8割を占め、昨年度と比較すると55名増加した。職員の保育基準や適正な配置を考慮し若干の増員を計画している。

【金本】統廃合後の施設の再利用は。

【答弁】千里幼稚園、猪苗代保育園は公共利用を検討中。猪苗代幼稚園は民間からの利用意向の打診があり、公益性を含め調整中である。吾妻幼稚園については引き続き検討していく。

【金本】通園時の安全対策は。

【答弁】出入口を2箇所設けて、一方通行とし、駐車場での乗り降りをしていた。比較的交通量も多く、整備の必要性は十分認識している。安全対策については万全な対応を図っていく。

金本 久美子 議員

Q. 川西(ひまわり)こども園の開園準備は

A. 備品、バス1台を追加補正し、細部については2月初旬までに確定



【金本】スクールバス運行の具体的計画は。

【答弁】3台のバスを運行する予定である。現在2台のバスを所有しており、もう1台は今定例会の補正予算に計上している。利用する児童は、1号認定児童で、教育標準時



建設中のひまわりこども園

【金本】園庭整備、園舎内部の設備等の全ての工事は完了は。

【答弁】建築工事については70%強の進捗率となっている。また園庭工事、遊具設置、フェンス設置、駐車場整備、地中熱導入設置工事などができるところから着手し、11月30日までに完成する予定である。

備品（厨房等）、遊具等については1月中旬にすべて入ると考えている。

間で利用する3・4・5歳児とする。

運行ルートであるが、1台目は翁島の戸ノ口から国道49号線沿いに運行し、2台目は押立から県道7号線沿いに運行。3台目は市沢から国道115号線沿いに運行し、各々園に到着後、猪苗代・千里地区の遠隔地の児童をピストン送迎する形を考えている。

【金本】猪苗代・千里地区にあつてはどこまでがスクールバスの対象か。

【答弁】さくらこども園の園バスについては1.5kmから2kmの間ということで、地区を区切っている。3台のバスでピストン輸送、できる限り時間帯の中で、近距離の区間についてもフォローしていきたい。最終的には説明会の時期に合わせて2月初旬位には確定していきたい。

【金本】給食体制はどのようにするのか。

【答弁】0歳児から5歳児まで、完全給食を実施する予定である。外部委託を予定しているが、こども園の調理室を用いて調理し、給食を提供する。

昼食のみ、午前と午後の間食、また生後6ヶ月から1歳6ヶ月の間は、離乳食を発育に合わせ実施





細貝 功人 議員

Q. マイナンバーへの対応は  
A. 付番や通知までの作業は完了している

【細貝】マイナンバーのシステムの改修、条例の見直し等の準備は。

【答弁】システム改修状況は、住基システム等の改修を行い、付番や通知までの作業は完了している。条例の見直しは、個人情報保護条例と関連ある手数料条例の一部改正に審議頂き12月議会において、個人番号の利用に関する条例を提案する予定である。

【細貝】制度について、職員への周知は、町民に対しての広報・周知は。

【答弁】ホームページで制度を周知し、広報9月号にも掲載している。新情報が出た時は、随時広報等でお知らせし、職員には総務課で制度内容の研修を実施している。



マイナンバー 通知カード

【細貝】今後の具体的な職員の研修計画は。

【答弁】個人番号制度が23名、情報セキュリティ研修が30名で、本年度の研修で職員全てが受講するということになる。



熱中症対策は

【細貝】この夏、熱中症により搬送された人数、熱中症が死亡原因と思われる人数は。

【答弁】熱中症による搬送者は8月31日現在7名で、熱中症が原因の死亡者はいない。

【細貝】小中学校について、部活中の対応は。冷房化率と今後の見通しは。

【五十嵐】減反政策廃止の町への影響は。

【答弁】金額が確定している平成26年度の数字をベースにした場合、廃止が確定となっている金額は1億2千300万円で全体の34%、3分の1強になる。

【五十嵐】米生産農家所得確保対策は。

【答弁】農家所得の向上対策を講じる必要がある。農地中間管理事業を活用した規模拡大、道の駅など、直売等による流通コストの削減、付加価値をつけるブランド化の取り組みを行っている。

【五十嵐】町ブランド化推進委員会の事業実施状況は。

【答弁】「米」「そば」「健康」「産品開発」の推進部会で、ブランド化に向けた取り組みを行っており、農畜産物の6次化に向け、推進・支援体制づくりに取り組んでいる。

【五十嵐】原発事故に伴う損害賠償の実態は。

【答弁】本年7月末で、支払件数が2千280件、111億4800万円となっており、請求金額は約82億700万円となっている。



戻りつつある教育旅行

【五十嵐】町民が元の生活に戻るまで請求すべきと思うが。

【答弁】町は、住民の方々の生活を守るために努めてまいりたい。

【五十嵐】教育旅行の回復状況は

【答弁】学校数で280校、22年度比較で65・7%、教員を含む宿泊者数は3万4809人で、22年度比較で55・7%となっている

五十嵐 ミエ子 議員

Q. 米生産農家所得確保の対策は  
A. 付加価値をつけるブランド化の取組みを行っている

【五十嵐】農地中間管理事業の活用状況は。

【答弁】平成25年度より取り組んでおり、「経営転換協力」が5名で、310万円の交付金を受けている。平成26年度は「地域集積協力」が3集落で取組み、1746万円が交付されている。

平成27年度についても、経営転換協力金、地域集積協力金の該当集落があるということで、現在推進している状況である。

【五十嵐】今後の農地集積目標・推進体制は。

効率的かつ安定的な農業経営が地域に占める担い手の集積率を85%として定めたところであり、農業振興公社（農地中間管理機構）と連携を密にし、集落、農業者の意向を確認しながら進め、多くの集落で交付金を受けられるような体制を作りあげたい。





佐藤 英一郎 議員

Q. 女性の登用推進は  
A. 各種委員会などへの登用を積極的に図る

町長の公約実現は

【佐藤】「女性の登用推進」の現状は。

【答弁】町の主な15委員会に占める割合は、平成22年4月1日現在では179名中49名（27・4％）であったが、平成27年9月1日現在では57名（31・8％）と、4・4％の増となっている。

職員については、平成22年4月1日現在、女性中間管理職数は177名中2名であったが、平成27年4月1日現在では172名中5名で、3名の増となっている。今後も積極的に進めてまいりたい。

【佐藤】企業の誘致・定住化促進は。

【答弁】「空き工場活用促進事業」、「新規創業者等支援奨励金交付事業」さらには、移住・定住促進事業を新しく立ち上げた。これらを広く周知し、雇用の場の確保や、定住化の推進につなげてまいりたい。

【佐藤】きめ細かい福祉体制の構築とは。

【答弁】児童福祉の分野では、さまざまな子ども・子育て支援施策を進めてまいりたい。

障がい者福祉については、社会発展の成果に等しく預かる「完全参加と平等」の実現を進めていく。高齢者福祉については、地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」を平成29年度までに構築し、できる限り住み慣れた自宅での生活ができることを目指している。

【佐藤】町民の利益優先事業とは。

【答弁】国、県の情報を的確に収集、活用し、効率化を推進しながら町民の目線に立って最優先の事業を展開していく。

現在、整備を進めている道の駅事業においても、農林水産省、国土交通省、環境省、総務省と複合的に国庫補助を活用することにより、一般財源の充当を抑制し、他の単独事業に振り分ける事が、引いては町民の利益につながるものと考えている。



「18歳選挙権」  
平成28年6月19日に施行

【佐藤】選挙権が18歳に引き上げられる事に伴う取組み・啓蒙活動は。

【答弁】今後、選挙権を有することとなる高校生を対象に、県選挙管理委員会が中心となり実施している。選挙体験授業を、来年3月2日に猪苗代高等学校で実施することになっている。その際、町選挙管理委員会でも職員を派遣し、県選挙管理委員会と連携し、一層の啓発に努めていく考えである。

地方創生（総合戦略）の考えは

【長澤】町の将来的展望と総合戦略の体制作りは。

【答弁】国の政策として地方創生が打ち出されてきている。根幹にあるのは人口減少に、どう歯止めをかけるかであり、5カ年振興計画と合わせ、実行性のある総合戦略に行きたい。

専門分野の設置については考えていない。

【長澤】産業構造の変化に対する対応は。

【答弁】第1次産業である「農業」は、就農人口の減少や高齢化、休耕地の増加など環境が大きく変化してきている。

第3次産業である「観光」は分析によると「雇用力」と「稼ぐ力」があると考えている。

産業構造の変化を町総合戦略に反映していく。

【長澤】有効求人倍率が高くなっている中で雇用の確保は。

【答弁】企業では人が集まらないという声を聞く。希望する業種がない等、ミスマッチといわれる。介護や看護の業種も募集されているが、なかなか集まらない状況である。

【長澤】「天のつぶ」の特徴、他の品種と比べて優位性は。

【答弁】系統はコシヒカリ・ひとめぼれがあり、食味に優れ、背丈の低い倒伏のしにくい品種である。町としては、良い面を取入れながらブランド化をして評価の高い米にしていきたい。

【長澤】観光とサービス業の充実は。

【答弁】町の総合戦略を策定するにあたり観光は外貨取得のもっとも重要な位置を占め、町を支える産業の一つであり、総合戦略の基幹であると思っている。



人気スポット「観音寺川の桜」

DCキャンペーンの実績と成果は

【長澤】期間中の観光客の入込状況は。

【答弁】DCキャンペーンは4月から6

月まで県内において盛大に開催された。本町の状況は、31万3951人となり、昨年の同時期比で16・3％の増加となった。

野口記念館のリニューアル、かわせみ水族館のオープン、迎賓館の特別公開等が増加の要因と思われる。

【長澤】問題点や反省点は。

【答弁】本町でも様々なイベントや特別企画を観光協会、関係団体と連携して実施し誘客に繋がってきた。特に、観音寺川の桜まつりでは、ライトアップの増設と、商工会青年部による七色ライトアップが行われ、大変好評であった。

今後は駐車場ではこりが発生することから対策を講じてまいりたい。

【長澤】今後の取組みは。

【答弁】DCキャンペーンは観光素材の発掘や磨き上げ、さらには、地域の「おもてなし」「きっかけづくり」であり、アフターDCに向け継続した取り組みが必要と考えている。

※DC(デスティネーションキャンペーン):地元観光関係者と自治体が、J Rグループをはじめ全国の旅行会社などと連携して行う国内最大級の観光キャンペーン



## 委員会レポート

## 文教厚生常任委員会

視察地：岡山県矢掛町・岡山県美咲町

## 歴史・文化を活かしたまちづくりについて（矢掛町）

町づくりを考える中で、矢掛市街地に江戸の終わりと明治の初期にかけての古民家を再生し、町を元気にしていこうということになった。3年前から総額7億5千万円以上をかけ、古い建物を改修した。それを町の交流館、宿泊施設、温浴施設としている。

しかし、整備できたのは3カ所で、宿場町の通り、一直線上で800mをどう活かしていくか、外国人観光客の誘致をどうするのか大きな課題となっている。

まちづくりは執行部だけでなく、議会にも4年前から「賑わいのまちやかげ宿特別委員会」が設置されている。

## 子育て支援策について（美咲町）

人口が5年間で約1000人減少した中で、組織を整理し、昨年「こども課」「まちづくり課」が編成され、子育て支援、定住促進を中心にすすめていく体制を整えた。子育て支援は5つの基本目標ごとに、具体的な施策を実施している。

保育園等に通園していない、小学校入学前の子どもを自宅で養育する保護者を応援する「育児支援



美咲町独自の子育て支援を学ぶ

## 【意見】

今回、調査した両町共、人口減少という現状に危機感を持ち、自分達の町の良さを探し、それを活かした施策を必死になって講じている様子が伺えた。

当町も人口減少を喫緊の課題とは言っているが、今後更なる努力を望むものである。

事業」や、3人以上の子どもがいる家庭で3人目以降の子どもが義務教育を終了するまで水道の基本料金を助成する「生活支援事業」、自転車で通学する場合、生徒1人に対して、1万3000円を補助する「自転車等購入補助」など、当町で実施していない事業が多くみられた。

## 総務常任委員会

視察地：愛知県美浜町・三重県玉城町

## 同報無線の運用状況（美浜町）

美浜町は、MCA電波による同報無線の整備を決定した。特色は地域放送で、平常時は電波の組み合わせによって6つの学区単位で放送ができるように運用を考え、誰でも地域放送が容易にできるような使い勝手のよい放送設備にしておき、おおむね人口の8割をカバーしている。1台1万6千円で有料配布としたが、戸別受信機に1万円補助することとした。

## ICTを活用した安心・安全なまちづくり事業（玉城町）

玉城町では平成21年に「元氣バス」という、乗車時間と場所、目的地が違う乗客が乗り合わせて、それぞれの希望にあわせて運行するオンデマンドバス事業を始めた。「元氣」バスのバス停は、町内をほぼカバーするように162箇所設置している。

運行管理は玉城町社会福祉協議会に受託してもらったのが、元氣バスの成功であった。

## 【意見】

【美浜町】防災無線は、予算的に無理との結論を出していたが、防災無線の必要性は強く認識していたと思われる。町の予算で可能な防災無線が提示されたので実施したが、普段から防災無線を整備したいという心構え、問題意識があったからこそ、実現が可能となった。

ラジオ付受信機を準備したが



美浜町同報無線システムを視察

有料にしたほうが無料より関心が高まると考え、有料にしたことは非常に有効であったと考える。

悪天候等の理由により、防災無線が聞きづらい場合に、役場に電話すれば放送内容が聞ける機能は、猪苗代町でも聞きづらいことが多々あるので、便利であると感じた。各地区のみの放送が可能で、使い方が工夫されていた。

【玉城町】町の徴収する税、賦課金の収納率向上、健康診断受診率向上で、大きな実績があった。

デマンド交通の乗車人員を伸ばすという明確な目的を持ち、戦略を立て強い意志で実行したことが、デマンド交通乗客を大きく伸ばせた要因であろう。問題点を抽出し、課の縦割り業務に固執しない戦略を立て、実行していく部署と統率していく人材が揃ったからこそ実現できたと実感した。

## 議会広報編集特別委員会

視察地：山形県庄内町・山形県川西町

## 6次産業化の推進（余市町）

果樹栽培は明治8年に北海道開拓長官がアメリカからりんごの苗木を持ち帰り、明治12年に初めて実を結んで「よいりんご」が誕生し、会津藩土の入植により基礎が築かれていた。

●6次化の取組みとして

- ・ワイン産業の振興
- ・新商品の開発、研究の支援
- ・「余市」ブランドとしてのPR
- 課題
- ・新規就農者の増加（10年間で45名）によりどう生産者が多く、畑が不足している。
- ・ぶどうの安定供給と品質向上が難しく、価格競争も始まっている。
- ・生産者の高齢化により6次産業化に取り組む農家が少ない。
- ・販売促進とPRが不足している。

●6次産業化の取組みとして

- ・観光協会と町内の食品加工会社が連携して「つぶつぶコンスープレ」を開発し、平成26年4月から販売している。
- ・アスパラガス栽培は昭和4年からと歴史が古く、昭和15年には産業組合経営缶詰工場が操業した。



北海道喜茂別町で「6次産業化」を学ぶ

昭和42年の作付けは460haであったが、現在は減少傾向にある。ホワイトアスパラガスは価格が高くてレストラン等の需要も多いことから、平成19年に「喜茂別アスパラガス生産振興検討会」を設立し、21戸中15戸の農家が使用している。歩留まりの良い結果となっている。

## 【意見】

①6次産業化を推進するには、素材を地元で生産することが不可欠である。

②民間の開発会社や加工業者、大学等と連携して新たな商品開発が必要である。

③生産した商品が無駄にならないよう消費できるシステム、サイクルを構築することが大切である。

④町民が自信を持って町外に宣伝できる商品を作り、愛されるキャラクターデザインで積極的にアピールすること。

## 【庄内町】

「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをゆかに、ゆかにいことを真面目に書く」という故井上ひさし氏の言葉を編集方針にかかげている。

一般質問は、質問項目を一つとして200字以内にタイトルをつけて、議会最終日までに質問者が作成する。また、予算・決算特別委員会の質疑については、質問と答弁を2つまでとし、質問者が200字以内で作成する。

## 【意見】

両町とも、議会と町民が一体となった議会だよりを目指し、様々な工夫と努力をしている。

「広報モニター」・「広報アドバイザー」の採用、議会の提言・追跡調査等、議会活動は、わが町の違いも大きいものがあつた。

さらに「開かれた議会」・「町民と語る会」など、議会だよりの大きな魅力になっている。

## 【川西町】

編集方針は、町民の目線に立つて、分かりやすくすること。写真は1記事に最低1枚は載せること。見出しは出来るだけインパクトのあるものとし、文字サイズを大きくする。町民参加の拡大として、「広報モニターからひとこと」、インタビュー「町民の声」を記事とする。



議会広報コンクール全国1位の川西町で



# 町民の声



猪苗代地区  
富田 千代 さん

“おはよう”

猪苗代町の人々は、心の優しい元気な方々が多いです。猪苗代町は平和で、自然に恵まれた素晴らしい町だと思います。

いつものことです。朝、店を開け植木鉢やプランターの花々に水をあげていると、男子の中学生たちが自転車で通ります。「おはようございます。」と声をかけると「おはようございます。」とおはようございます。と、それぞれが言いながら通りすぎます。向いの家の方がごみの入ったゴミ袋を出しています。「おはようございます。」と挨拶をする「おはようございま

す。」と挨拶が返ってきます。当たり前のことですが、それがとてもうれしいのです。

幼稚園に行く二人の女の子がお父さんとききます。向うから先に、「おはようございませう。」と元気に挨拶をしてくれます。「おはようございませう。」と返すといつてききます。と手を振ってくれます。おばあちゃんと幼稚園の小さい組の男の子がきます。「おはようございませう。」と私が挨拶すると、お

ばあちゃんが「おはようございませう。」と。男の子は、かぶっていた帽子で顔をかくします。が、少し行ってから手を振ってくれます。

でも冬は大変です。雪が多く降った朝は、歩道が雪で歩けなくなります。雪をかたずけるのは重労働です。歩く人は皆、車道を歩いています。とても危険です。歩道に雪のない、安全で楽しくみんなが町の中を歩けたらいいなと願っています。

こんな平凡な毎日が心を満たしてくれる瞬間です。

## 議会の行事

### 議長杯ソフトボール大会

8月23日に運動公園で開催されました。「ベルストーンズ」の皆さん、優勝おめでとうございます。



### 議長杯ゲートボール大会

9月30日に運動公園町営コートで開催され、議会チームも2チーム参加しました。「小沢チーム」の皆さん、優勝おめでとうございます。



傍聴においで下さい

**12月議会は  
12月7日(月曜日)  
開会予定です。**

【一般質問予定日:10日(木)・11日(金)】

※質問者・質問内容については12月7日以降に町のホームページ(議会事務局)に掲載します。また各公共施設にチラシを掲示しますのでご覧ください。

#### 掲示施設名

- ・役場町民ホール
- ・学びいな
- ・和みいな
- ・カメリーナ
- ・町立猪苗代病院
- ・老人福祉センター
- ・如風庵
- ・まちのえきまるしめ

### 議会広報編集特別委員会

議長	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
長沼一夫	長澤操	佐藤英一郎	佐藤悦夫	細貝功人	金本久美子	佐藤光幸

新たな時代に対応する町づくりのために、重責をもって応えなければならない。

佐藤 光 幸

## 編集後記

2020年東京オリンピック種目の野球、ソフトボールについて、1次リーグの一部を県内で開催することを検討している。

当町は合宿の里づくりを打ち出しているだけに熱がこもる。

議会も9月定例会において、議員定数1名を削減する議員提出議案が可決された。来年の2月の改選からは15名の議員構成となり、今後の猪苗代を担うこととなる。